会議録

会議の名称	和泉市環境審議会（令和４年度第２回）
開催日時	令和５年２月９日（木）14 時～15 時 10 分
開催場所	市庁舎３階３A，３B 会議室
出席者	増田会長　巖副会長　竹歳委員　藤田委員（web 参加） 藤森委員　山本秀明委員　垰田委員　北野委員 山本恭弘委員　伊藤委員　河合委員　定委員 友田委員　穴瀬委員　橋本委員　梁取委員 （以上１５名　順不同）
事務局	環境保全課
会議形態	対面、web 併用
会議の議題	■議事 （１）副会長の選出について （２）第３次和泉市環境基本絵計画の進捗管理について （３）その他（信太山丘陵里山自然公園、I-EMS 等）
会議の要旨	・事務局から各議事についての説明、また、その内容についての確認及び意見
会議録の作成方法	□全文記録 ☑要点記録
記録内容の確認方法	☑会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他（　　）
議事要旨 【主な意見等】	（１）副会長の選出について 【事務局】 和泉市環境審議会規則第３条第１項において、本審議会の副会長は２人を置くことと規定されております。昨年度まで副会長にご就任いただいていた藤原様がご退任されたので、新たに副会長を選出する必要があります。 また、同規則において副会長は委員の互選により定めると規定されているので、この場において委員の皆様に新たに副会長を選出いただきたいと考えておりますが、いかがいたしましょうか。 【委員】 議長である増田会長の意見をお伺いしたいと思います。

	【会長】 　町会連合会の藤原様の後任として、本日新たに就任頂いた松下委員に、副会長に就任いただきたいと思います。 【委員一同】 　異議なし。 【会長】 　なお、松下委員は本日欠席されているため、後日事務局より改めてご依頼いただきますようお願いいたします。 (２)第３次和泉市環境基本計画の進捗状況報告について 〇説明概要 　令和２年度末に策定した第３次和泉市環境基本計画における進捗状況調査の結果について、具体的な数値目標を設定した施策を記載した資料を元に報告した。 １．代表指標 ・人口に対する公共交通機関の利用率について、鉄道・バスは減少傾向、地域バスは前年度より利用者数が若干増となった。鉄道・バスの利用率の減少は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い外出の機会が減った結果であると推測している。 ・事業系ごみ年間排出量について、前年度より 500t ほど増加となった。要因としては、新型コロナウイルス感染症の収束による事業活動の再開によるものと推測している。 ・環境基準達成状況について、調査河川の中９カ所中１カ所で水質の環境基準（BOD）を超えた。場所は松尾川下流で、環境基準値 3.0mg/L のところ、3.1mg/L であった。 ２．モニター指標 ・部門別温室効果ガス排出量の削減率について、令和元年度から順調に削減が進み、令和３年度時点で対平成 25 年度比 22.4%削減となった。再生可能エネルギーの導入等が進み、電気由来の CO_2 が減少したことが主な要因であると推測している。

	・和泉市シティプラザをはじめ、一部の市内公共施設でESCO事業を導入し、機器の改修を行った結果、CO_2排出量が削減された。 ・ごみの資源化率は、前年度比で横ばいとなった。 ・その他のモニター指標について、前年度より概ね良好もしくは、横ばいの結果となった。 〇質疑 【委員】 家庭系ごみ１人・1日あたりの排出量の目標値が、449.36g/人・日となっている点について、目標値は一般的にそこまで細かく記載しないもの思われますが、何か計算して算出されているのでしょうか。 【事務局】 ごみの排出目標につきましては、第５次和泉市一般廃棄物処理基本計画にて、将来のごみの排出計画を予測して作成しており、何日という単位で計算するため、細かい数値となっております。 【委員】 貴重動植物の数に関する指標について、「アダプティブな管理を進めていく」とあるが、一般的な表現ではなく、分かりにくいです。 【事務局】 外部の方に意味が伝わるよう「アダプティブ（順応的）な管理」と表現を修整致します。 【会長】 第３次和泉市環境基本計画と同様、市民の方向けに、分かりにくい表現の用語解説を作成いただいた方が良いと思われます。 【事務局】 承知しました。

	【委員】 代表指標の「町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れていると思う市民の割合」という項目について、令和2年度から3年度で数値が下がった理由について、また、今審議会で説明頂いた評価が下がった項目について、具体的な改善策等を考えられているのか、ご説明願います。 【事務局】 評価が下がった指標については今後分析が必要と考えており、関連する取組の担当課と議論し、どういった見直しができるか整理させていただきたいと考えております。 【委員】 今、環境といえば「ゼロカーボン」や「カーボンニュートラル」に関する話題がよく上がりますが、和泉市でも国の補助事業等を活用し、何らかの取組を進めるような考えはありますでしょうか。 【事務局】 和泉市では、令和4年度より国で始まった「脱炭素先行地域」へ応募する予定です。この地域に採択されると、例えば太陽光パネルの設置費用の3分の2の国庫補助を受けられます。 また、並行して令和5年度に、和泉市地域脱炭素戦略を策定し、本市におけるカーボンニュートラルに関する取組を進めていく予定です。 【委員】 モニター指標の「「地震や台風等の災害に対する備えができている」と思う市民の割合」について、7割の人ができていないと考えているようですが、今後どのようなサポートをしていく予定でしょうか。 また、現在の温室効果ガスの削減目標が2030年度に2013年度比で46%削減となっておりますが、資料では2020年度以降のデータが記載されておりません。これは、現時点で2020年以降の結果が出ていないのかどうか、お伺いいたします。

	【事務局】 　災害への備えと致しまして、災害廃棄物処理計画を生活環境課で作成しており、Youtube や小学生が授業で使用しているタブレットへ配信し、周知をさせて頂いております。 　また、部門別 CO_2 排出量の現況推計の変遷のグラフが 2019 年度で止まっている理由と致しまして、本データは環境省のホームページで公開されているデータを元にしており、最新データが 2019 年度であるためです。2020 年度以降のデータについては、今後随時更新させていただきます。 　現在の第 3 次和泉市環境基本計画の削減目標は、国の削減目標が 2013 年度比で 26%削減とされていた時期に設定したものです。基本計画の策定後に、国の削減目標が 46%削減に変更されたことを受け、本市の削減目標も修正する必要があると考えており、後日、和泉市地域脱炭素戦略の策定後に、基本計画も併せて改訂する予定としております。 （3）その他（信太山丘陵里山自然公園、I-EMS 等） 【事務局：説明概要】 〇信太山丘陵里山自然公園 　令和 3 年度の活動の概要のほか、令和 6 年度の一部開園に向けた拠点施設や沿道の工事の状況について説明した。 〇I-EMS（和泉市環境マネジメントシステム） 　令和 3 年度における、庁舎内のエネルギー使用量等の実績について報告した。特に令和 3 年 5 月に新庁舎へ移転したことに伴い、令和 2 年度と比較して大きな変化があった項目について報告した。 ・電気使用量が増加、ガス使用量が大幅減となった。これは、庁舎移転に伴うエアコンの更新によるものと考えている。（旧庁舎では主にガス式だったが、新庁舎では主に電気式となった） ・水道使用量が大幅減となった。これは、新庁舎内のトイレ等で雨水利用するようになったためと考えている。 ・公用車燃料消費量が若干増となった。これはコロナウイルス感染症の規制緩和に伴い、職員の外出が増えたことによるものと考えている。

	・紙の購入量は概ね横ばいとなった。 ・可燃ごみの量が若干増となった。これは庁舎移転時に発生したごみによるものと考えている。 〇質疑 【委員】 I-EMS の表に関して、電気とガスでは単位が全く違うため、例えば、トータルの二酸化炭素排出量などの欄を追加いただければよく分かると思うのですが。 【事務局】 トータルの二酸化炭素排出量は、約 715t から約 489t へ減少しております。料金では 600 万円ほど増加しております。 【会長】 料金が高くなっている理由は、電気代の高騰が影響しているのでしょうか。 【事務局】 その通りです。 【会長】 もし、可能であれば、二酸化炭素排出量の進捗状況を記載いただければ、分かりやすくなると思います。 【事務局】 検討させていただきます。 【委員】 環境監査については、どのようなチェック項目があるのでしょうか。 【事務局】 リサイクルボックスが設置されている、エアコンの温度管理が適正か、照明のオンオフができているか、などの項目があります。

	【会長】 　できれば、こういう項目で監査しています、といった資料があればいいと思います。 【事務局】 　承知しました。 【委員】 　I-EMS について、新庁舎に移転されてからの効果が分かるよう、次年度以降の報告の際、令和２年、令和３年、令和４年の結果について、新庁舎移転やコロナの影響など各年次の特徴的な変化について説明いただければ、市民の方により理解いただけると思います。 【会長】 　その他、事務局より何かご報告ありますでしょうか。 【事務局】 　特にございません。 【会長】 　わかりました。それでは特にないということなので、これを持ちまして和泉市環境審議会を終了させていただきたいと思います。 以上